



新世紀のキャンパス

Campus of New Century

神戸学院大学



ウォーターフロントにふさわしい広々としたイベントパーク



海をイメージした“光庭”の階段室は、学生が教室間を移動する際に目を楽しめる仕掛けが(B号館)



閲覧室を全て窓際に配した図書館。中央吹抜けからも自然光がふりそそぐ(A号館)





シンボリックな芝生公園に赤レンガが映えるキャンパスはみなと神戸の新しいランドマークに

神戸学院大学は、薬学部の6年制移行を契機に、手狭になった西区キャンパスから一部を移転、神戸ポートアイランドキャンパスを開設した。敷地面積は約14ヘクタールと広大で、学生のみならず社会人、市民、民間企業、行政機関等と交流・連携し、地域の「知の拠点」となる都市共生型キャンパスを目指している。

「敷地をフェンスなどで仕切らず、神戸市の遊歩道やデッキが大学の一部と化し、市民が自由に散策できる開かれたキャンパスにしたかった」と語るのは、ポートアイランドキャンパス事務センター事務部長の西脇 隆雅氏。神戸市ウォーターフロント構想の一部として、広々とした芝生広場を設け、学生・教員の相互コミュニケーションを重視した低層構造としたことで、近隣住民からも好評で、居場所がたくさんあると喜ぶ学生も多い。

建物内は吹抜けによる自然採光を積極的に取り入れた。照明や空調も人感センサーとし、雨水や下水を高度処理した中水を水洗トイレ用水や緑地への散水に使用するなど、環境にやさしいキャンパスでもある。

新キャンパスでは、薬学部の2～6年生、法学・経済・経営学部の3、4年生が専門科目を中心に学ぶ。社会科学系の場合、インターンシップや就職活動において、神戸の行政・産業・商業の一大集積地が望ましい。さらに薬学部の教員が神戸市の医療産業都市構想に参加、協同で研究を進めるほか、経済学部も東アジア産業研究センターを設置、多数の関連企業と連携するなど、立地によるメリットは大きい。

A号館は、事務センター、図書館、情報処理施設、カフェが設備されている。

1Fの事務センターはワンフロア・ワンストップで、学生が1箇所で効率的にサービスを受けられる。4Fの情報処理施設では、実習室のほか自習室、収納式のデスクトップのゼミ室がある。5Fと6Fには、法人の理事会や各種委員会に使用する会議室、役員室、応接室を設置した。B号館は法学部、経済学部、経営学部の講義室、演習室をはじめ、模擬法廷教室やカフェテリア、レストランなども入る。C号館は主に薬学部棟だ。新キャンパスでは、従来の中講座制から、横断的な研究や6年制演習、実習などを実践的に運用できる部門制となり、内部施設も五つの部門ごとに分かれている。このほか模擬薬局、ナースステーション、病棟内での錠剤・軟膏・注射剤などの調剤室など、実習室も充実の設備だ。



裁判員制度を先取りした模擬法廷教室は、正面に3人の裁判官と9人の裁判員が座る最新式（B号館）



無菌室ではクリーンベンチという装置内で注射薬の調剤を行う（C号館）



海側は神戸空港、山側は神戸港が一望でき、外部から貸してほしいとの声が後を絶たない会議室（A号館）



屋内290席、屋外148席の構内最大のカフェテリアからはシーサイドやイベントパークが見渡せる（B号館）



一般市民からも人気が高いポートピアホテルがプロデュースするレストラン（B号館）



海岸側のクルーズカフェは、岸壁に客船が停泊したときは臨時のターミナルとなる（A号館）